

髪がっなぎ  
髪がっなぎ

ありのままの自分で

岩手県盛岡市立黒石野中学校

三年

中川

聖希

幼い頃入院した際、婦人科と小児科の病棟  
が同じ階で、ニット帽をかぶった女性がいた  
のをふと思ひ出す。今日は、担当の先生が  
イケメンだから、ピンクにしよう。なんて言  
いながら、その人ははにかんだ笑顔をみせた。  
抗がん剤の副作用で髪がほとんどなくなっ  
頭を恥おかしそうに隠しながら、黒のニット

帽からピンク色の可愛いニット帽へ交換した。

ヘアドナーシヨンレ髪を寄付するという

意味だ。大阪にあるNPOジャーナルは、

病気の治療の副作用や頭髪・毛髪に関する様

々な病気が原因で髪の毛を失いういっぐを必

要とする人のために、原料となる髪の毛の提

供を呼び掛けている。普通なら、ただ切りた

くがったからという理由で髪を切り、ゴミへ

捨ててしまおうのだらうが、いらなくなた髪

の毛が誰かの人生に役立つとは、なんて素

敵が活動なのだらう。髪を切った人も、きつと嬉しいに違いない。髪を伸ばし続けるのは簡単なことではない。すぐに伸びないからこそ、長ければ長いほど切るには勇気がいる。だから、私だって二年も髪を切らなかつた。辛いときも、嬉しいときも共に乗り越えてきた髪。その時々思い出が二の髪に刻まれている。

本を読み進めると「寄付はとも良い取り組みだし」という安易な考えでは終わらなかつ

た。幼い少女が伸ばし続ける自慢の髪を切るまでの想いの変化。男の子である仁君がヘアドネーションのため、誹謗中傷に立ち向かいながらも何年もかけて髪を伸ばす理由。病氣や髪の毛がない人に対する「かわいそう」の持つ意味。多くのことをニカヘアドネーションを通して学びることが出来た。そして何よりも、ウィッグは誰のためにあるのかという点。髪の毛のない本人のためだがつい思いがちだが、本人だけではなく、家族や周囲の人

たちを安心させるためでもあるというニ  
は、正直とても驚いた。ヘアドネーショ  
広めたいと、純粋な気持ちで髪を伸ばし  
る長い髪をした後ろ姿の仁君が、私には  
も強く、凛々しく見えた。

切ってしまったおうと何度も思っ  
るタイミンが失った私の髪。中学生にな  
てからたくさん傷つき、たくさん泣いた。  
も、支えてくれる人が周りに大勢いる  
同時に知った。私が次に髪を切るときは、  
新

しい自分へ生まれ変わるとき。そして、  
その感謝の気持ち表現するとき。伸ばした  
の長さを測ると、ヘアドネーションが  
三十一センチまで、あともう少しだ。  
一番大事なものは、あるがままの自分  
を出せ

る社会を作っていくことだと感じた。家  
族のためや、笑われたくないという理由  
からウイ  
ッ  
がもつければ悲しい現実だ。私たちは  
人ひとり見たため性格も習慣や文化も  
全て違  
う。違  
うことを理解して  
いるはずなのに、  
そ

れを忘れ偏見を持ち、差別をしてしまふ。しかし、物くの遠いがあつてこそ、世界は輝く。人生を豊かにするためには多様性を求めているのに、自分自身をウイツグで隠すという行為は相反する。自分も周りも髪のことなんて気にしない、ウイツグは単なるアツションの一部、そんな社会が本来の姿ではないのだから。

「髪がフがぐ物語」は、本という「紙」に「フ」て「フ」が「リ」、人と人とで「フ」が「リ」、少しお「フ」輪が「広」がり「フ」つある。でも、まだ足りない



い。簡単にヘアドネーションができる美容院が全国にもっと増えることを願う。  
「そのままのあなたを素敵」と誰もが言える世界にしなければならぬ。皆、誰かにとつて大切な人。同情するよりも共感し、励ましあえる彩り豊かな人生を共に歩んでいきたい。私の「おは」とても小さいけれど、自分に出る「ニ」ことから始めよう。皆と一緒に笑いながら、ゆくりと一歩一歩。